

関目の目 第十一号

平成25年8月2日

○風鈴大賞

関目商店街の皆さんと関西大学とで、小学生に作ってもらった170個もの風鈴からデザインの良い風鈴を5つ選びました。ランク付けにも困難を極めました。以下に名前のある子供たちの風鈴がベスト5に選ばれました。賞品として選ばれた5人には関目商店街で用意していただいたお菓子の詰め合わせと、金賞、銀賞、銅賞の子供たちには私たちが手作りの賞状プレゼントし、渡された時のあの何とも言えない子供たちの笑顔が今でも頭に残っています。おかげさまでカメラでも最高の表情を撮影できました。



関目小学校
3年2組
川名恵愛ちゃん

《金賞》



関目小学校
2年2組
酒井翔輝くん

《銀賞》

《銅賞》

成育小学校3年
たにみねあみちゃん



関目小学校 1年2組
みなみりようこちゃん

《4位》

関目小学校 2年1組
山一あゆむくん

《5位》

○返却の様子

7月19日(土)、関目商店街は朝の9時からわいわいと賑やかだった。伊勢さん達の「下ろすぞー、ええかー?落とさんようにしっかかり持ちやー」という声がアーケード内に響いていた。

風鈴レター実施日から約12日間、商店街を夏らしく華やかに彩っていた風鈴達を、無事に製作者の子供達へ渡すため、大人たちは恐る恐る、真剣な眼差しで風鈴を取り外した。今年の風鈴はガラス製なので割れやすく、手が滑って落としてしまうと割れてしまう危険があったので、より慎重で丁寧な作業が必要だった。

限られた時間の中で、取り外すため、ハサミやペンチを駆使する。大学生がペンチの使い方戸惑っている。「はい、切ったるわ」



とパチパチ切ってくれたその姿は頼もしく、職人の様に見えた。

時間内に何人の子供が取りに来てくれるのだろうかと不安でいっぱいだったが、学校帰りに制服にランドセルを背負ったままの子供達が嬉しそうに風鈴をもらい、弾ける笑顔で帰っていく姿を見て、私達はほっと一安心し、朝から続いた緊張から解き放たれた。



◎まとめ

風鈴返却の準備で机の上に風鈴を並べていると、子供たちが作った風鈴はとても可愛らしいものばかりで、何人かの地元の方々がこの風鈴売っているの?」と声をかけてくれました。「違うんです、これは売っていません、小学生に絵付けをしてもらった風鈴を今日子供たちに返却する日なんです。」と言うと、「あら、そう残念ね。可愛い風鈴ばかりだったからってつきり売っているのかと思ったわ。」と言ってくださった。風鈴返却が始まり、小学生が風鈴を取りに来るのを待っている中、2人の男性が立ち止り、声をかけてくれた。なんと関目小学校の校長・長谷川辰夫先生と教頭・奥田謙司先生だったのである。子供たちがちゃんと風鈴を取りに来ているか様子を見に来てくださったのだ。

風鈴返却が終わり、関目小学校と関目東小学校にお礼の挨拶に伺った時に、関目東小学校の校長・筒井博美先生もなんとこっそり風鈴返却の様子を見に来て下さっていたのだ。このように、地元小学校の温かいご理解を得て、この風鈴企画を無事に終えることができた。



発行★関西大学政策創造学部

深井麗雄ゼミ 商売研究班

米留昇 (0808044917190)

Mail : sh0227-uw@i.softbank.jp

・新井里穂・法心沙也香・高橋理恵